

大念佛

No.76

発行／融通念佛宗
総本山 大念佛寺大阪市平野区平野上町1-7-26
TEL.06-6791-0026

題字：融通念佛宗 管長 倍巻良舜

マニ先祖さまの声を聴く

お家近くの道端や、そばを流れる川の橋の上、代々ご先祖のおわす墓前など、先代さんから教わった場所で、お線香を薰じてご先祖様をお迎えします。これは昔からのお盆の一コマです。

この場より家へと帰る道すがら、なびくお線香のけむりは、まさに雲台の如し。ご先祖様はこの雲台にお乗りなつて、お家へとお帰りになられるのです。お家に到着したらそのまま仏前へとすみ、手元のお線香を香炉に立て合掌。ここで「おかえりなさい」「ようお帰り下さいました」とお声をかけさせていただける自分があるなら、たとえ悩みや苦労があつても、なんとか無事にこられた証(あか)ということです。

この事への気づきと機会をお与え下さったご先祖様への感謝、この先も幸多からんようになると願いを込めて手を合わさせていただく事が、お盆の心です。

こうしてかけた言葉に、ご先祖様は「ありがとう」「元気にしてたか」など、生前交わした言葉のままに、感謝と労いのお言葉を返して下さいます。

よくよく考えれば、ご先祖様は普段よりそばに寄り添い、自分や家族をお守りくださっています。礼を尽くしてご先祖様をお迎えし、接待させていただくお盆は、今の自分があるのはご先祖様のお陰と、あらためて感謝の気持ちをお伝えする機会でもあるからです。

そして、この優しきご先祖様のお声に、いつも「はいお陰さまで」「元気によつてます」と言葉を返せるような自分を養うことこそ、ご先祖様に最も安心していただける姿なのではないでしょうか。

布教師会 溪村真司

通じて、今の幸せをあらためて自分の心に刻み、この機会をお与えくださつたご先祖様に感謝するときなのです。この心を、仏教では供養と申します。

お盆の起源はお釈迦様の弟子である目連(目連)様があの世で苦しむ母を済うために、母とその場にいた諸々の靈を供養なさつたことに始まります。

「幸せとは、自分一人だけで得られるものではない。全てのものの幸せを願つてこそ」というお釈迦様の教えに沿い、餓鬼道に墮ちた母と諸々の靈を仲間と一緒に供養し、その功德をもつて極楽浄土へとお導きになつたと伝わります。

このことからお盆のお供も一切の靈を分け隔てなく弔うという、供養心を育むものであります。

お盆の終わりは、「氣をつけて」「また来年」「ありがとうございました」と心に念じ、ご先祖様をお見送りする姿で閉じられます。大切な客人を見送る姿は、その客人が見えなくなるまで続きます。客人が振り返つた時、もうそこに家人の姿なしでは、寂しい思いにさせますから…。

ご先祖様を送る時も同じです。いつ振り返つてもそこに送つてくれる家族・親族の顔がある。

このいつまでもという姿こそ、ご先祖様を気遣う供養の心なのです。「道中無事に」と結ぶ心は、ご先祖様の足元を照らす一灯となり、やがて私達をお守りくださる灯へとつながります。

八月十六日 午後八時より 万灯会法要が始まります。
お盆を良きお心を育む機会にされてはいかがでない、また万灯の折りは個々の一つの靈を返します。

どうか皆様、自分なりのカタチを大事にされて、お盆を良きお心を育む機会にされてはいかがでない、また万灯の折りは個々の一つの靈を返します。

この万灯会法要の前、午後七時半ですが、「この法要の主旨も同じです。万灯会の口ウソク勧進(一灯三百円)は午後五時から受け付けています。お盆の送り火としてぜひご参拝ください。



大念佛寺の万灯会



「寄り付き」
前回に述べたように、在家伝法とは一口でいえば融通念佛宗の血脉と、円頓戒と呼ばれる戒法を相伝する仏事儀礼ということになります。

伝法修行期間は通常、五日間になっていますが、中には七日間の日程で行われるところもあります。伝法入行に先立つて「寄り付き」を行います。これは入行に備えて一堂に集合することをいいます。

平素、私たちはつい仏さまから遠ざかってしまいがちです。きょう一日の生命をいただけば、一日の喜びがあります。そこに仏名を称える機縁があります。「しあわせはあまり大きくなくていい。手の平の上に乗るくらいがちょうどいい。落とさないようにしつかり握つていられるから。」というすばらしい詩を書いた少女がいます。私たちは自己の掌中に誰もが幸せの小さな珠をいただいているにも拘らず、それを握りしめて落とさないようにしているかは疑問です。

「寄り付き」は、仏さまに親近することによって、そのことを改めてわが心に問いかすことと言えます。そして百千万劫といふ長い時間をかけても、なかなかめぐり遇うことの難しい仏法の教えに潤うことのでき得た喜びごころをもつて行法にいそしみたいものであります。

「水行」
伝法の加行の一つに水行があり



行人による水行

ます。これは身も心も清めるもので、自己の内と外、眼・耳・鼻・舌・身・意の六根、身・口（ことば）・意（ここころ）の三業を洗い清めるためのものです。本来、水行は行人すべてが行うことが本意ですが、現在では当代導師（伝法主催寺院の住職）が行人になり代わってこられています。行人は導師の水行を合掌と念仏で迎え、共に「沐浴清淨 六根清淨 三業清淨」と発唱します。

水行は毎日の勤行（おつとめ）の前、道場入りの前等に行います。全身に水をかかる本来の水行を簡略化したものに筒行があります。これは桶の中の水に筒の葉を浸し、水行の御文を称えつつ、頭部に三度注ぐものです。なぜ筒を用いるのかといえば、地鎮祭などで、竹箇に注連縄を結び御幣をつけ、界を清める風習は各地に行われています。また施餓鬼には餓鬼壇を筒で飾るなど、筒は魔除け、清浄の力があり、また神仏、祖靈の魂の依り代となつて、人びとを守護します。

伝法行人は最初に本堂に入る際筒行を行うことが望ましいと思います。伝法行人の着る白衣を淨衣といいます。淨衣の背に、中央に「南無阿彌陀仏」、その左右に「応法妙服 自然在身」または、「十界圓滿」と墨書きしてあります。なぜ一律に淨衣を身に着けるのかといえば淨衣の白色は純白を表示し、行人の心が世の濁りに染まることなく、仏道精進の清い心の持ち主であることを表しています。また一律にこれを身に着けることで、一味平等といって、年齢、性別、貧富、健康病身等あらゆる差別を超えて、仏さまの前では平等であり、みな大切な仏子（仏の子）、親氏（おしゃかさまの子）であるということです。

淨衣には袖のある着物仕立てのものと、袖のないもの（これを袈裟という）があり、どちらでもよろしいが、行人はみな同じものを着ることが大切です。袈裟は仏門に帰依した人が身に着けるもので、いわば同行衆の制服です。これを被着する者は慈悲、忍辱のお徳をいただくことになるのです。慈悲とは仏さまの大いなる慈しみとあわれみの心をいいます。いいかえれば人びとの苦しみを抜き、安樂を与えようと日々教化くださるお心のことです。

忍辱とは、いかなる困難や屈辱にも耐え忍ぶ強い心のことです。淨衣を着て袈裟をかけた姿は人はやさしい思いやりの心、自らには強い忍耐の心をもつて強く明るくこの人生を歩んでいく姿であると理解していただきたいと思います。

在家伝法について(二)

融通念佛宗宗務総長 吉村暉英

「淨衣・袈裟」

伝法行人は最初に本堂に入る際筒行を行うことが望ましいと思います。淨衣の背に、中央に「南無阿彌陀仏」、その左右に「応法妙服 自然在身」または、「十界圓滿」と墨書きしてあります。

青年会だより

融通念佛宗青年会 会長 潤野宗規



祝十回 ぼさつさまぬりえ

今年の展示は万部法要中、本堂南側の瑞祥閣にて開催いたしました。

総勢千六百五十三名の方々に参加していただき、法要終了後には塗り絵に書かれたすべての「ねがいごと」がかなうように祈願成就法を執り行いました。

平成十九年より、仏様との縁を深めるきっかけにしていただけたとの思いで始まつた「ぼさつさまぬりえ」は今年で十回目を迎え事ができました。

毎年一月に姿や持物を「どのようすれば親しみをもつて塗つていただけるか」と思案しながら私が描いております。二月下旬には真つ白なぼさつさまが沢山の人々の手に届き、四月下旬には願いがこもった色とりどりの姿となつて再会します。

今年は私もぼさつさまを塗り、この行事が無事に継続できたことへの感謝と今後のますますの発展のお願いを書かせていただきました。

我々青年僧は、より研鑽を深め、皆様の期待に沿える立派な僧侶となるべく精進してまいります。どうぞご支援、ご協力の程よろしくお願いいたします。

東大寺「千僧法要」出仕

去る四月二十六日、東大寺大仏殿において全日本仏教青年会主催「仏法興隆花まつり千僧法要」が執り行われました。

趣旨としてはお祝迦様の誕生を祝い、仏法興隆の契機、そして近年続けられており、全国各地域・各宗派から、多くの僧侶が参集し、宗派の垣根を越えてお互いを尊重し合い、慶讃の一般の人々と集い、嘗まれてきました。

この法要は昭和四十三年より毎年続けられており、全国各地域・各宗派から、多くの僧侶が参集し、宗派の垣根を越えてお互いを尊重し合い、慶讃の一般の人々と集い、嘗められました。

第一回 広げよう融通念佛の輪

平成二十七年十月十二日 斑鳩町文化振興センターいかるがホールにて

「詠誦歌舞」二曲
融通念佛宗寺庭婦人会・魚山流
詠誦歌舞クラブ会員有志の方々にご協力を得て、教化活動では今回初めて出演していただきました。

【散華 伝供法要】
融通念佛宗菩薩役、讃師、樂役、座奉行諸師のご協力のもと菩薩による散華、伝供式を厳修いたしました。



第十一教区教化活動報告

広げよう融通念佛の輪

平成二十七年十月十二日 斑鳩町文化振興センターいかるがホールにて

第一部 菩薩來迎の世界
「詠誦歌舞」二曲
融通念佛宗寺庭婦人会・魚山流
詠誦歌舞クラブ会員有志の方々にご協力を得て、教化活動では今回初めて出演していただきました。

【散華 伝供法要】
融通念佛宗菩薩役、讃師、樂役、座奉行諸師のご協力のもと菩薩による散華、伝供式を厳修いたしました。

第二回 講演

「大丈夫だよ、がんばろう！」

講師 山田 邦子

山田邦子氏は、タレント活動のかたわら自己の闘病生活からの体験を基として「乳がん体験と早期検診を呼びかけ」の活動をなされており、全国講演も行っておられます。

当日も、がんの早期発見治療の大切さとともに、がんに立ち向かう人たち、そしてその家族の皆さんを勇気づけたいとの熱意が会場全体に伝わり、「大丈夫だよ、がんばろう」「私もこうして頑張っております」との姿と力強いお話をいただきました。

教化活動の開催に当たりましては、多くの皆様方のお陰をもちまして、無事盛大裡に終えることが出来得ましたことを感謝申し上げます。

第十二、十三教区教化活動報告

去る、平成二十七年開宗九百年記念 大通上人三百回御遠忌に合わせ、奈良県東部中山間部を中心とする第十二教区、奈良県大和郡山市を中心とする第十三教区と合同にて記念誌『融通大念佛』を刊行し、両教区各寺院の檀信徒の皆様に配布させて頂きました。

この記念誌は、檀信徒の皆様が時歎仏の一節とお念仏をとなえさせていただきました。

当青年会からも毎年多くの僧が出仕し、登壇しております。今年も加盟団体法要として、声明『夕時歎仏』の一節とお念仏をとなえさせていただきました。

第十二、十三教区教化活動報告

去る、平成二十七年開宗九百年記念 大通上人三百回御遠忌に合わせ、奈良県東部中山間部を中心とする第十二教区、奈良県大和郡山市を中心とする第十三教区と合同にて記念誌『融通大念佛』を刊行し、両教区各寺院の檀信徒の皆様に配布させて頂きました。

この記念誌は、檀信徒の皆様が時歎仏の一節とお念仏をとなえさせていただきました。

当青年会からも毎年多くの僧が出仕し、登壇しております。今年も加盟団体法要として、声明『夕時歎仏』の一節とお念仏をとなえさせていただきました。

長 吉村暉英師の文献を参考に、「御経は人生のよき道標」「生きる喜び」「父母ご先祖への感謝」を感じて頂ければと編集致しました。

この大きな節目である開宗九百年、三百回忌を共々語り継いでいくことを祈念し、一同皆様に感謝申上げます。

第十一教区教化活動実行委員会

第十二、十三教区
教化活動実行委員会



